

2024年12月

交響曲「第九」

歓びを未来へ！

坂東俘虜収容所 奇跡の物語

くすのきしげのり

ベートーベン交響曲「第九」。この曲には「寛容であること」「すべての人が兄弟となること」「平和への願い」そして「生きていることのよろこび」が込められています。

たびたび登場する児童書の紹介です。第九といえば、12月の風物詩ですね。それが舞台となる徳島県鳴門市では6月に演奏会が行われるそうです。それは、戦時中、現・徳島県鳴門市大麻町坂東に坂東俘虜（捕虜）収容所があったことに由来します。捕虜収容所のイメージを覆すこのエピソードを紹介したく選書しました。年末までにどこかでこの曲を耳にすることと思います。第九とともに坂東俘虜収容所の心あたたまるエピソードのことを思い起こされ、平和への願い、生きていることのよろこび、すてきな世の中の実現を願いたいものです。収容所の所長さんは福島県会津の出身だそうです。会津の精神が受け継がれていたとすれば、歴史的スケールも壮大に感じられます。

